

大分市下水汚泥燃料化事業の優先交渉権者の決定について

本市では、5ヶ所の水資源再生センターが稼働しており、全体で1日当たり約80tの下水汚泥を排出しています。その全量を市外の工場でセメント原料としてリサイクルしていますが、その運搬処分に年間約5億円を費やしており、今後も管路整備の拡大に伴う下水汚泥量の増大が見込まれ、経営基盤の安定化にとって経費の削減が喫緊の課題となっています。

このような中、下水汚泥がバイオマスとして、再生エネルギーの活用が可能であり、温室効果ガスの削減による地球温暖化対策やエネルギー構造の転換等、循環型社会の形成に貢献できるポテンシャルを有しており、本市の事業経営にとってメリットが大きいことから、令和3年2月に事業方針を公表し実施に至ったところです。

1. 事業概要

事業名	大分市下水汚泥燃料化事業
事業場所	大在水資源再生センター敷地内
処理能力	29,600t-wet/年(90t-wet/日)
事業方式	DBO方式 (市が資金を調達し、施設の設計、建設及び維持管理・運営を一括して委託する方式)
事業者選定方式	公募型プロポーザル方式
運営期間	令和6年10月～令和27年3月末(20年6ヶ月)

2. 優先交渉権者選定までの経緯

年度	項目
令和3年4月20日	・募集要項等の公表
令和3年7月2日	・参加表明書の受付
令和3年7月30日	・競争的対話の実施
令和3年9月3日	・技術提案書の受付
令和3年9月30日	・技術対話の実施
令和3年11月4日	・第5回事業者選定委員会 プレゼンテーション
令和3年11月18日	・第6回事業者選定委員会 優先交渉権者の選定
令和3年12月	・基本協定の締結

3. 優先交渉権者

	企業名	主な役割
優先交渉権者	日鉄エンジニアリング(株)グループ	
代表企業	日鉄エンジニアリング(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・設計・建設業務 ・維持管理運営業務 ・大規模修繕業務 ・SPC管理業務 ・汚泥燃料有効利用業務
構成企業	ヴェオリア・ジェネッツ(株)	・維持管理運営業務(共同運営)
構成企業	(株)タカフジ	・汚泥燃料有効利用業務
協力企業	梅林建設(株)	・建設業務(土木・建築工事を担当)

提案価格 (税抜き)

- ・ 設計・建設費 4,950,000,000円
- ・ 維持管理・運営費 6,930,000,000円
- ・ 合計 11,880,000,000円

4. 広域化・共同化

県内7自治体（豊後高田市・日出町・杵築市・別府市・津久見市・佐伯市・臼杵市）8ヶ所の下水処理場から排出される下水汚泥の一部を下水汚泥燃料化施設に搬入します。



【上下水道局 下水道施設管理課】